

総合リハビリテーション科学領域

総合リハビリテーション科学領域の履修例 1

1. 対象学生

修士課程を修了した理学療法士で、修了後は、臨床において指導的役割を果たしていくことを希望する現職者

2. 志望理由

大学院修士課程を修了した理学療法士で、現在一般病院においてリハビリテーション部の責任者の立場にある。最近多くの病院において医療経済改善の目的で在院日数の短縮が求められているが、担当患者の中には骨折を受傷する高齢者が多く、手術後のリハビリテーションには多大な日数を必要とするのが現状である。しかし厚生労働省の方針により、今後更なる在院日数の短縮を求められることが予想される。そこで博士課程への社会人入学を果たして、高齢者に対して短期間で機能の向上を図ることができる術後のリハビリテーションのための医学的知識と基礎技術の習得を希望する。

3. 研究課題

『高齢の骨折術後患者の在院日数短縮へ向けたクリティカルパス作成に関する研究』

<内容>

本研究では、高齢者の術後リハビリテーションの段階で入院期間が長期化する要因を解明して、在院日数短縮に向けた効果的なクリティカルパスの作成を目指す。高齢の骨折手術後患者では、受傷前の生活環境、身体機能、個人の有している合併症が患者一人一人において様相を全く異にしているため、術後のリハビリテーションにおいて現在作成されているクリティカルパスの使用は極めて困難である。そこで、高齢者の術後のリハビリテーションの妨げとなる因子を、看護、医療、介護、福祉、リハビリテーションの多方面から分析して、多くの患者に効果的で、かつ簡便に使用できるクリティカルパスを作成する。

4. 履修科目

科 目	授 業 科 目	単 位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目		
	インタープロフェショナルワーク論	1	多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び、将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。
	教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育・研究者に求められる教育観や教育方法の在り方、エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに、研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目		
	リハビリテーション科学特講	2	老年者の健康・体力の保持・増進と生活の質（QOL）の向上に焦点を当て、リハビリテーション科学の立場から、インタープロフェッショナルな連携の理論的構築、およびこれまでの経験的に行われてきた診断・治療・ケアについて、その有効性を科学的に検証し、エビデンスの蓄積の観点から専門性を深める。
	リハビリテーション科学特講演習 (老年者の障害に対する理学療法推論過程)	2	高齢者の骨折術後のリハビリテーション阻害因子を看護、医療、介護、福祉、リハビリテーションの多方面から分析するための最新の知見を文献等から知る。すでに明らかな阻害因子を組み込んだクリティカルパスを試作し、具体的事例に試行し、特別研究に必要な研究方法等を検討する。
特別研究	リハビリテーション科学特別研究	6	研究課題のとおり
計		12	
研究課題	高齢の骨折術後患者の在院日数短縮へ向けたクリティカルパス作成に関する研究		
主指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員	副指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員

総合リハビリテーション科学領域

総合リハビリテーション科学領域の履修例 2

1. 対象学生

理学療法士の資格を有し、介護老人保健施設に勤務している、修士課程を修了した現職者

2. 志望理由

理学療法士の資格取得後、3年間老健施設に勤務し、社会人として保健学専攻修士課程に在籍して脳血管障害に対する運動療法に関する修士論文を作成した。しかし歩行障害の改善には、運動療法の側面からだけでは対処できない部分が多く、補装具や生活環境などの様々な側面からのアプローチが必要となる。特に日常生活における移動手段として歩行を実用化させるためには、補装具の果たす役割は大きく、その効果を科学的に解明する必要性を感じたため、博士課程に入学して研究を深めることを希望する。博士課程で得た多くの知識を基に、将来は教育者・研究者への道を志したい。そのため、指定規則に定められている教育学関連の選択科目 4 単位の修得も希望する。

3. 研究課題

『脳血管障害の歩行障害に対する装具治療の効果の科学的根拠に関する研究』

<内容>

本研究では脳血管障害の歩行障害に対する装具治療の効果について検討し、その科学的根拠について解明を目指す。現在、脳血管障害の歩行障害に対しては運動療法が中心に行われているが、実用的な歩行を再獲得できるまで歩行障害を改善させるには限界がある。そこで装具療法が併用されることになるが、その効果と膝関節や足部の機能異常の種類や程度との関連性については、まだ十分解明されていない。そこで、科学的根拠に基づいた装具療法を確立することを目的として、本研究を実施する。

4. 履修科目

科 目	授 業 科 目	単 位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容	
講義・演習	共通科目	インタープロフェショナルワーク論	1	多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び、将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。
		教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育・研究者に求められる教育観や教育方法の在り方、エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに、研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	リハビリテーション教育学特講	2 (選択)	臨床実習指導者あるいは養成校の教員として将来的に学生にリハビリテーションに関連する知識や技術を教育する、あるいは臨床で患者の教育や指導に必要な教育に関連する知識を修得する。
		リハビリテーション教育学特講演習	2 (選択)	教育実践技術の中心的位置を占める講義等をデザインするための知識と技術を修得する。また、臨床実習指導者として学生に臨床の知識や技術を教育する場合に必要な教授方法を修得するために必要な教育に関連する知識を修得する。
		リハビリテーション科学特講	2	脳血管障害の装具治療の分野で、リハビリテーションにおける予後予測や評価に関する科学的根拠について最新のデータを基に理解を深める。
	リハビリテーション科学特講演習 (障害者の機能予後予測・体力評価と補装具)	2	リハビリテーションにおける機能予後予測や障害者の体力評価、補装具に関連する研究課題を設定し、信頼性と妥当性を重視した科学的根拠に基づいた研究内容について多角的に考える。	
特別研究	リハビリテーション科学特別研究	6	研究課題のとおり	
計		16		
研究課題	脳血管障害の歩行障害に対する装具治療の効果に関する科学的根拠に関する研究			
主指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員	副指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員	

総合リハビリテーション科学領域

総合リハビリテーション科学領域の履修例 3

1. 対象学生

作業療法士の資格を有し、介護老人保健施設に勤務している修士課程を修了した現職者

2. 志望理由

専門学校卒業後5年間、総合病院にて作業療法業務に従事し、その間に放送大学において学士を取得した。その後、地元の介護老人保健施設に転職し5年経過した現在では指導者的な存在として活躍しているが、寝たきり高齢者に対する作業療法研究の必要性を痛感するようになった。そこで大学院修士課程に社会人入学し、寝たきり予防・改善に関する作業療法研究を行った。この研究活動を通して更に高齢障害者の作業療法の効果研究を進展させることを希望して博士課程入学を志願した。また、最近は施設の管理運営にも深く関わっており職域を越えた広範な知識や指導技術が要求されているため、博士課程で得た知識を施設の管理運営に発揮したい。

3.

4. 研究課題

『日常生活の活発化が高齢者の健康体力の増進に及ぼす生理的効果』

<内容>

博士課程の研究では、寝たきりになることを予防したり、寝たきり状態から抜けだし、心身の健康を回復してQOLの高い生活を獲得するための生活指導について、インタープロフェッショナルに探求することを目的とする。本研究は、臥床傾向にある虚弱な高齢者に日常生活動作の実践、趣味活動、レクリエーション活動などを活発に行うことによって心肺機能、筋力、知的能力等に及ぼす生理的効果を測定し、高齢者の健康・体力増進、QOL向上のための支援の効果を検証することを目的とする実験的介入研究である。

4. 履修科目

科 目	授 業 科 目	単 位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目	インタープロフェッショナルワーク論	1 多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び、将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。
		教育・研究者育成コースワーク	1 保健学領域における教育・研究者に求められる教育観や教育方法の在り方、エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに、研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	リハビリテーション科学特講	2 各種の作業活動の実践が老年者の陥りやすい廃用障害を防ぎ、更なる心身機能、QOLの向上に役立つことをインタープロフェッショナルワークの視点に立ち、エビデンスに基づいて学ぶ。
		リハビリテーション科学特講演習 (老年者の日常作業活動と健康増進支援方法)	2 広範囲な学問領域の文献講読を通して、作業活動と老年者の心身の健康・体力の関係に関するエビデンスを蓄積する。また活動性の高揚による健康・体力増進の支援方法、理論構築の手法を学ぶ。
特別研究	リハビリテーション科学特別研究	6	研究課題のとおり
計		12	
研究課題	日常生活の活発化が高齢者の健康体力の増進に及ぼす生理的効果		
主指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員	副指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員

総合リハビリテーション科学領域

総合リハビリテーション科学領域の履修例 4

1. 対象学生

修了後は作業療法学分野で教職に就くことを希望している単科精神科病院勤務の社会人

2. 志望理由

作業療法士の資格を有し修士課程を修了した現職者で、作業療法士として民間の単科精神科病院に勤務し、精神科作業療法、デイケア、生活技能訓練（SST）などを通じて、統合失調症患者を中心とする精神疾患患者の社会復帰治療に従事している。しかしながら、実際の精神科病院での勤務を通じて、精神科作業療法学分野においてインタープロフェッショナルワーク、チーム医療に関する専門知識を身につける必要性を実感し、この分野における研究意欲が生じると同時に、この分野に従事する作業療法士の育成のために尽力したいと考えるに至った。博士課程修了後は大学等において教育者としての業務に就くことを希望している。そのため、指定規則に定められている教育学関連の選択科目 4 単位の修得も希望する。

3. 研究課題

『インタープロフェッショナルワークの実践による長期入院精神疾患患者の自立支援に関する研究』

<内容>

統合失調症を主とする慢性期の入院患者においては、その多くが本人と家族の高齢化および社会的受入体制の不足などの理由から、いまだに施設内にとどまっているものが多いという現状である。年単位の長期入院生活を送っている精神疾患患者の社会復帰を促進するためには、作業療法士のみならず各専門医療職の連携によるチーム医療が不可欠となる。博士論文では、精神科病院に長期入院となっている統合失調症を中心とする精神疾患患者を対象に、インタープロフェッショナルワークの視点から、個々の精神状態に応じた生活障害の改善と自立支援の方策を明らかにすることを目的に研究を進める。

4. 履修科目

科 目	授 業 科 目	単 位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容	
講義・演習	共通科目	インタープロフェッショナルワーク論	1	多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び、将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。
		教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育・研究者に求められる教育観や教育方法の在り方、エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに、研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	リハビリテーション教育学特講	2 (選択)	臨床実習指導者あるいは養成校の教員として将来的に学生にリハビリテーションに関連する知識や技術を教育する、あるいは臨床で患者の教育や指導に必要な教育に関連する知識を修得する。
		リハビリテーション教育学特講演習	2 (選択)	教育実践技術の中心的位置を占める講義等をデザインするための知識と技術を修得する。また、臨床実習指導者として学生の臨床の知識や技術を教育する場合に必要な教授方法を修得するために必要な教育に関連する知識を修得する。
		リハビリテーション科学特講	2	現代社会における様々なメンタルヘルスの課題、作業療法を中心とする精神科リハビリテーション科学の近年の動向、社会精神医学分野における最新の知見について学ぶ。
		リハビリテーション科学特講演習 (統合失調症・てんかん患者のQOL向上と支援の在り方)	2	統合失調症を中心とする精神疾患患者に対する自立支援と生活障害の改善をテーマに、精神科リハビリテーション科学分野に関する最新の論文及び同分野の近年の動向に関する資料の講読を行う。
	特別研究	リハビリテーション科学特別研究	6	研究課題のとおり
計		16		
研究課題	インタープロフェッショナルワークの実践による長期入院精神疾患患者の自立支援に関する研究			
主指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員	副指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員	